



RS MICRO SURF

RS マイクロサーフ

RS MICRO SURF

優れた仕上り性

従来の下地材より隠ぺい性が格段に高く、きめ細かい緻密な肌を形成しますので、
上塗の仕上り(光沢感)が一層向上します。

JIS A 5600 隠ぺい性(試験紙への塗装による比較)



従来微弾性下地



RS マイクロサーフ

隠ぺい性の比較

従来微弾性下塗り塗料

旧塗膜



従来微弾性下塗り塗料(薄塗り塗装)

RS マイクロサーフ

旧塗膜



RS マイクロサーフ

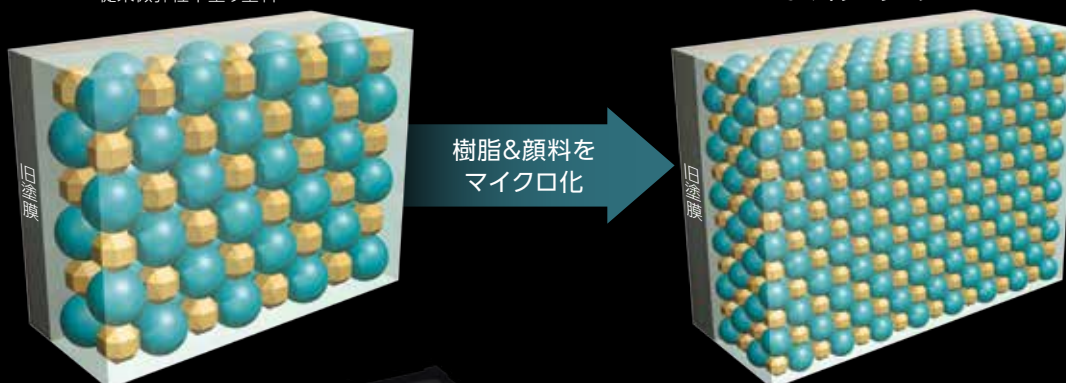
※旧塗膜上(ベージュ色)に「RSマイクロサーフ」と「従来微弾性下塗り塗料」をウールローラーで塗装。

ダブルマイクロ技法

エポキシ樹脂と顔料をマイクロ化することで、仕上り性が向上。

従来微弾性下塗り塗料

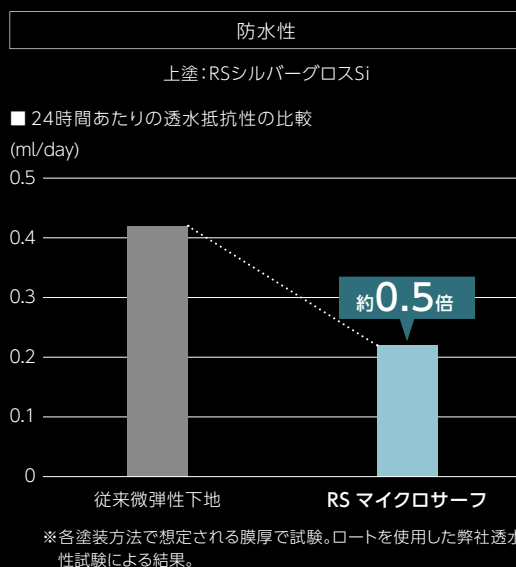
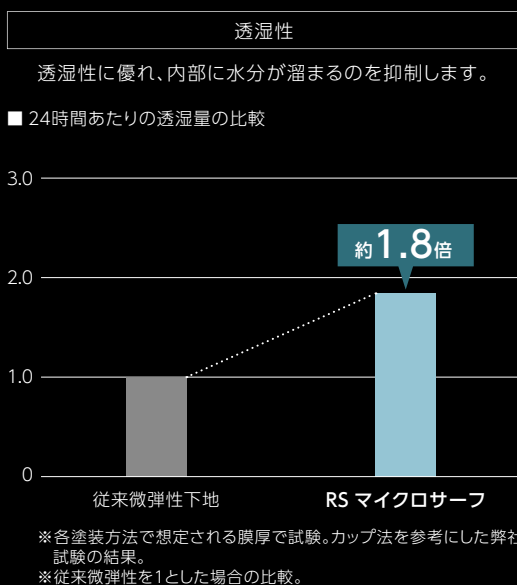
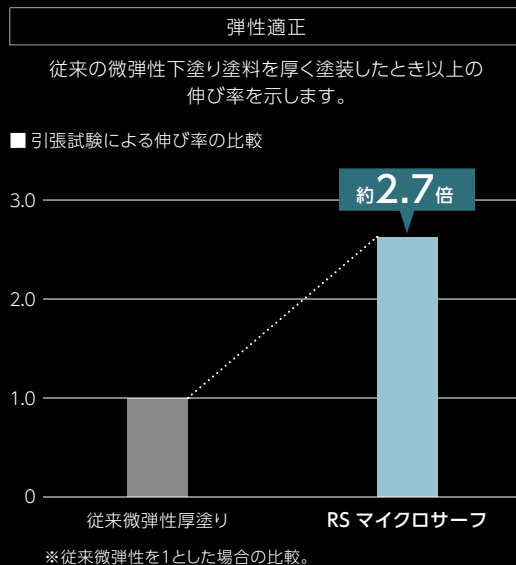
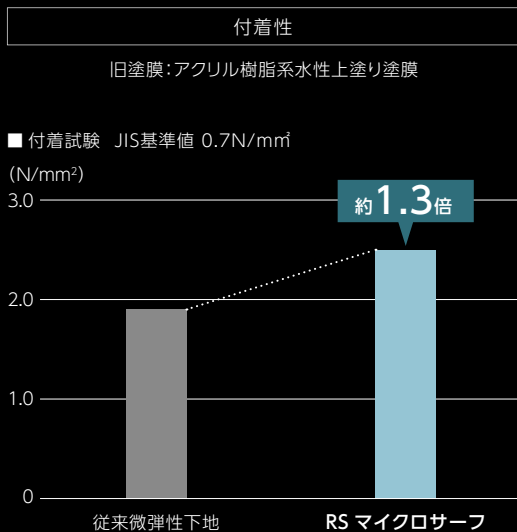
RS マイクロサーフ



樹脂&顔料を
マイクロ化

幅広い下地適正を有し、ハイブリッドテクノロジーにより耐久性の向上、
きめ細やかな仕上りを実現します。

多機能性



工程



【水性】

RSダイヤモンドF・Si
RSゴールドFII・SiII
RSシルバークロスSi
RSシルバーマットSi
RSクール水性Si

【弱溶剤】

RSゴールドマイルドF
RSシルバーマイルドSi

【プラチナ会員限定】

RSプラチナMUKI
RSプラチナMUKIマイルド

■ 塗装条件

塗装方法	ウールローラー
希釈率	0~2%
標準所要量 (kg/m ² /回)	0.25~0.40

※標準所要量は、個々の条件によって異なります。
※標準所要量は、塗装作業に必要な使用量の数値です。

■ 塗装間隔

項目	温度	
	5℃	23℃
標準塗装間隔	最短	16時間
	最長	7日
使用時限	—	—

- 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温、高湿度、通風の無い環境では、膨れ、はく離、割れ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。
- 可塑剤が多く含まれる部材（塩ビ鋼板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など）への塗装は避けてください。粘着や軟化が生ずるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。
- 蓄熱されやすい素材（軽量モルタル、ALC、窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を用いた「高断熱型外壁」や旧塗膜が弾性リシンや弾性スタッコ、アクリルトップ等の場合、そのまま塗装すると環境条件によっては水や温度の影響で塗膜が膨れたり、剥離が生じることがありますので、旧塗膜は完全に除去してください。
- 綿壁、繊維壁、耐火被覆材（ロックウール）、耐火被覆用けい酸カルシウム板などぜい弱な素材への塗装は避けてください。
- 強溶剤系塗料を上塗するとチヂミ、シワ、リフティングが生ずるおそれがあります。
- 本品のカタログに記載されていない上塗を用いると経時で塗膜ワレ、ハガレが発生するおそれがあります。適用可能な上塗であることを十分確認のうえ決定してください。
- 水性パテ（合成樹脂エマルジョンパテ）は耐水性が劣るため、外部や浴室壁面等に使用すると、早期に塗膜剥離が生ずる可能性がありますので使用しないでください。
- 弾性スタッコへの塗装はできません。
- 気温5℃以下（低温）、湿度85%以上（高湿）での施工は避けてください。
- 屋外において降雨、降雪、強風の恐れがある場合は塗装を避けてください。
- 塗装間隔は環境（温度、湿度、換気回数等）や膜厚によって変わります。
- 塗膜の乾燥硬化過程で、結露や降雨等の水分の影響を受けた場合、塗膜の異状（白化、艶引け、フクレ等）につながる場合があります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
- 結露が発生する場所では、塗料中の微量の水溶性分が表面に溶出し粘着物となって析出することがあります。粘着物は水拭きや水洗で除去してください。
- 塗膜に降雨や結露の影響を受けた場合は、白化や艶引けなどの異状が生じやすくなります。山間部や河川近くなどの夜露の早くおきる多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。
- 結露が多発する環境、含水率の高い躯体、漏水箇所の防水処理ができてない場合は、住居者の生活環境等の違いで、塗膜の持つ透湿性以上の水蒸気量が被塗物から発生すると塗膜が膨れることがあります。
- 塗装仕様書に記載の数値は標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅を生じることがあります。
- 塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行なってください。
- 適用可能な旧塗膜は下地との付着性に問題なく、活膜であることを条件としています。活膜下地（付着強度が0.7N/mm以上）
- 旧塗膜に光沢が残っており劣化していない場合には付着不良や塗り重ねチヂミが発生する場合があります。旧塗膜表面の目荒しを行い、試し塗りによって確認のうえ塗装を実施してください。
- 吸い込みの著しい下地にはシーラーとして「RSマルチシーラー」「浸透形Mシーラー」を推奨します。
- 吸い込みの大きい下地や素材に直接塗装する場合は、塗付量が乾燥が遅くなりますので塗装間隔を長めにとってください。また、上塗までの塗装間隔が規定よりも短い場合、縮み、割れ、乾燥不良を起こすおそれがありますので注意してください。
- 被塗物の形状、膜厚や色目、塗回数、希釈率の差などにより、実際の艶と若干異なって見える場合があります。また塗継ぎ箇所でも艶ムラを生じやすい傾向があります。試し塗りの上、本施工に入ってください。
- 無機系樹脂、光触媒処理、ふっ素樹脂、シリコン樹脂等特殊な樹脂で処理された窯業系サイディングボード面に塗装する場合は、シーラーに「RSマルチシーラー」を塗装してください。なお、事前に試し塗りを確認してください。付着性に問題がある場合は、目荒しを行ってください。

- 新設素材が押出成形セメント板やGRC板の場合には、シーラーに「RSマルチシーラー」または「浸透形Mシーラー」をご使用ください。
- シーリング打設幅が広く、構造状大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので避けてください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、剥離、伸縮割れ、粘着などの不具合を発生することがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、本製品に対して塗装適合性のあるノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全に硬化した後に行ってください。また「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」「シーブラ」「RSプライマー」を下塗りすることで、可塑剤移行による汚染、粘着の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などにより剥離、伸縮割れが起こることがあります。
- 塗装方法により色相が変化する場合がありますので、一般部がローラー塗りの場合はできる限り入り隅まで入れてください。
- 刷毛塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上り肌や色相に多少差が生じます。
- 水性塗料を塗装する場合の刷毛はナイロン刷毛を使用してください。獣毛刷毛は固まったりダマになりやすいので使用しないでください。
- 被塗面の洗浄に薬剤を用いた場合、水洗を入念に行ってください。被塗面に薬剤が残存したまま塗装すると、塗替え後の塗膜に膨れ、割れ、白化等の異常をきたす場合があります。水洗後にpH試験紙を用いて被塗面が中性になっていることを必ず確認してください。
- 塗り替え塗装の前に、必ず高圧水洗やブラシを用いて、被塗面の付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。下地調整が不十分な場合には塗膜剥離の原因となったり、光沢不足や色ムラが発生するなど異常を生じるおそれがあります。
- 改修時の既存塗膜の剥離箇所は、予め既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 改修時、漏水がみられる場合は、予め要因となっている箇所への防水処理を行ってください。
- 新設コンクリート面に塗装する場合、pH10以下、表面含水率10%以下（ケット科学社製CH-2型で測定した場合）、又は表面含水率5%以下（ケット科学社製Hi5000シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合）まで十分乾燥させてください。
- 水洗直後は下地表面の含水率が高くなりますので、十分に乾燥（含水率10%以下:ケット科学社製CH-2型で測定した場合）させた後に塗装してください。
- コンクリートの目違い、ジャンカ、コールドジョイント等は、樹脂入りセメントモルタルで平滑にし、表面のごみ、埃、エフロッセンス、レイタンスなどの汚れを除去後、塗装を実施してください。
- 被塗物にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ・藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。
- 塗装前の部位にワックスやフロッカーなどが残存している場合には、ハジキや付着不良の原因となりますので、十分に除去してから塗装してください。
- 規定範囲を超えて希釈すると、ハジキ・光沢低下・色味変化・ダレ・隠蔽力不足など仕上りに異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
- 材料は規定する希釈率範囲を厳守し、電動ミキサーなどを用いて内容物が均一になるよう十分に攪拌してから使用ください。
- 塗装用具などは、塗料が乾燥しないので固まらないうちに洗浄してください。水で落ちにくい場合、水性デットソープティ洗浄剤やラッカーシンナーを用いて洗浄してください。（砂骨ローラーはシンナーで洗浄すると膨潤しますので、ご注意ください）
- 開栓後の塗料はできるだけ早く使い切ってください。また使用した塗料を元の塗料容器に戻さないでください。
- 現場での材料は、容器が密栓されていることを確認し、直射日光や凍結を避けた屋内の冷暗所で保管してください。
- 塗料が付着した布ウエス、紙、ローラーは引火、発火を防止するため水に浸漬するなどして安全対策を行ってください。
- 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

【予防策】

- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具（帽子・保護めがね・マスク・手袋等）を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛を着用すること。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合（多液品の混合・希釈等）しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。
- 【対応】
- 目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。

- 吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏出時や飛散した場合は、砂、布類（ウエス）等で吸い取り、拭き取ること。
- 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
- 【保管】
- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手が届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
- 【廃棄】
- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。（排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。）
- 【施工後の安全】
- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。
- 例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

